

1年生による発表

【かよこ桜について】

かよこ桜は、小学校の先生になりたかった「はやしかよこさん」のお母さんが、かよこさんのことを思って植えた桜の木です。

1945年、城山国民学校は兵器を作るための工場でした。かよこさんは、そこに働きに出ていました。8月9日の朝、「今日は行きたくないの。」と行きたがらないかよこさんでしたが、「もうすぐ誕生日だから、その日に休んだ方がいいよ。」とお母さんに言われ、仕方なく学校へ向かいました。しかし、その日の11時2分、一発の原子爆弾が長崎の空で爆発しました。かよこさんのお母さんは、家に帰ってこないかよこさんのことを、何日も探しました。亡くなったかよこさんが見つかったのは、原爆が落とされてから22日後のことでした。

月日が流れ、長崎には平和が戻ってきました。しかし、かよこさんのお母さんは、亡くなったかよこさんのことを忘れることができません。小学校の先生になることが夢だったかよこさんを思って、城山小学校の校庭に桜の苗木を植えました。かよこさんの好きだったドーナツをもって、何度もお参りに行きました。その桜の木は、今では大きく育ち、城山小学校の子供たちのことを見守ってくれています。

しかし、年をとったかよこ桜は、台風や病気で弱ってしまいました。それでも、かよこさんやお母さんの思いを忘れず、「目から消え去るものは、心からも消え去る」という思いをむねに、薬をぬったり、支柱を立てたりして、大切に守られています。今では、学校のあちこちに、かよこ桜二世の木が植えられ、少しずつ大きく育っています。



私たち城山小学校の子供たちは、この思いを大切にしながら、平和を守っていかなくてははいけません。

「平和は城山から」の思いをもって、これからも平和をつないでいきましょう。